

# 至仏山：期間限定、究極の絶景を求めて

斉藤整紀

- 平成 28 年 4 月 23 日（土）日帰り
- メンバー 斉藤整(CL)・村山（友人）
- コース 東京駅 6：36（新幹線）⇒8 上毛高原駅 8：10（バス）⇒戸倉中継所 10：20（バス）⇒10：55 鳩待峠 11：20 →13：30 小至仏山東側→14：20 至仏山（昼食）15：00→17：25 鳩待峠 18：00（夕ラ）⇒戸倉中継所 18：30（バス）⇒沼田駅 20：27（JR）⇒高崎駅 21：21（新幹線）⇒22：12 東京駅

## 【はじめに】

久しぶりに、村山氏と二人の山行となった。昨年 8 月の間ノ岳～北岳以来である。今回は、ヤマケイ『日本の山究極の絶景』特集の中の、「鳩待峠から至仏山を訪ね、山頂から期間限定の尾瀬の雪景色を展望する。」

この時期、至仏山から山ノ鼻へ直接下山できるため、当初、山ノ鼻小屋に宿泊の予約をしたが、今年は雪が少なく下山できないことが分かったため、宿泊をキャンセル、日帰りに変えた。

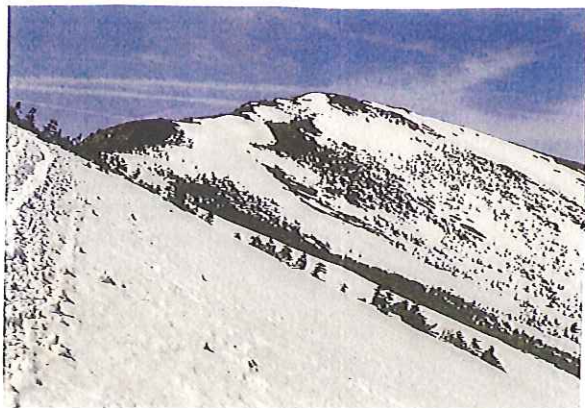
平成 28 年 4 月 23 日（土） 晴れ

公共の乗り物を使い継ぐ旅は車窓の眺めが楽しい。沼田の町は、「真田丸」の赤地に黒の六文銭の幟がはためき、鎌田への川沿いには見事な桜並木が続く。どの乗り物も客は極めて少ない。

車窓からは曇りがちに思えたが、鳩待峠に着く頃には一面青空に変わった。道路開通初日で、赤布は真新しく、トレースもあり、分かり易い。広い尾根上の樹林帯を進む。雪は腐っているが、上りはアイゼンなしで大丈夫。ワカン は全く不要である。1867mピーク手前 の木陰で一息いれていたら、南の空に虹色に棚引く雲が見られた。瑞雲か？

そこから小至仏山の東側目指してト ラバース気味に北進する。この辺りから村山氏がペースダウン。半年以上のブランクのせい！ここで 6 本歯の軽アイゼンを装着し、気分を変える。

やがて視界が開ける。北東に尾瀬ヶ原越しに燧岳、会津駒が素晴らしい。今年は尾瀬ヶ原に雪が全く無いのが異様である。また眼前に横たわる至仏山の大きいこと！



オヤマ沢田代の雪原を過ぎると、小至仏山辺りから、スキーやスノーボード下山を楽しむ者も見かける。

至仏山山頂が近づき、まず絶景ポイントの高天ヶ原に回る。雪が少なく重点植生保護地域は立入禁止で、その少し上に展望台が出来ている。確かに燧岳、会津駒のバランスは良いが、肝心の尾瀬ヶ原に雪の白がなく、茶色のため、期待した景色とは相違する。



それから至仏山山頂に上がって、360度の展望を楽しんだ。南に武尊山が広がり、南東に日光白根や皇海も望まれるが、北西に連なる白銀の上越連山に比べれば見劣りする。平ヶ岳が白く輝き、越後駒、中岳も見事！更に谷川連峰も。



帰りの最終バス時刻が気になりながらも、山頂の写真撮影、昼食で、出発が15時近くになった。急いで下山にかかったところ、かなり速い男女の後を追うことにした。村山さんは少し遅れ気味である。果たして、小至仏山に差し掛かって村山氏の姿が見えない。大声で呼んでも声がしない。

そこに二人連れの男女が休んでいて、男性が「一緒に探しましょう」と言ってくれた。沢側の斜面を一緒に覗いても、滑落者らしい者は見当たらない。「上へ戻ってみましょう」と言いながら、更に名前を呼んだところ、ようやく返事が返って来た。

村山氏は、雪径で踏み抜いた足が抜けなくなった。私を呼んだが聞こえず、困っていたところ、後からきた男女に手伝ってもらい、ようやく脱出出来たとか。足も攣って早く歩けない模様。正に満身創痍の状態である。

既に出発まで1時間を切り、バスは完全に諦めた。助けてくれた二人は、礼をいうと明るく話に乗ってくれて、プラスチックの櫛を見せてくれた。私も買ってきたいと思ったものである。

それよりも村山氏の足取りは厳しく、明るい内に鳩待峠に着けるか心配したが、5時半前に辛くも到着した。タクシーで戸倉まで降り、バスで沼田駅に行って、高崎駅で新幹線に乗り換え、東京に戻った。無論、車中反省会！

時間の遅れを挽回せんとする焦りが後続の見落としに繋がってしまった重大なミスであった。深く反省する。(了)